

空調の自然冷媒ガス導入で 電気料金が3〜5割削減!

「一般社団法人次亜塩素酸水普及促進会議代表理事」「日本除菌連合会長」として感染症防止対策に奔走する一方で「日本の灯りを護る会代表」として照明の2027年問題に提起を続け、マルチに活躍する越智文雄あかりみらい社長が、新たな分野で社会貢献を果たすべく行動範囲をさらに広げている。「電力消費量を3〜5割削減できる」という空調分野での自然冷媒ガスの普及拡大に取り組み始めたのだ。

あかりみらい・越智文雄社長に聞く

——越智社長が自然冷媒ガスの普及啓蒙活動を始めた理由から聞かせてください。

最大の理由は電気料金が大幅に下がるから。日本の電力需要の半分は照明と空調です。自然冷媒ガスはクーラー等を使用され、私を取り組んでいるLED照明の普及と合わせると、その両方で日本の電力消費量とCO2排出量は半分にになります。

このことは意外と知られていません。

——自然冷媒ガスとはどのようなものですか。

地球温暖化問題でオゾン層を保護するための取り決めであるモントリオール議定書に基づき、フロン類の製造が禁止され、これら特定フロンに代わって開発されたのが合成化合物の代替フロンです。それに対し、自然冷媒ガスは文字通り、自然界

に存在する物質を冷媒として使用したもの。世界市場では普及が先行しており、すでに欧米諸国を中心に70カ国以上で約800種の自動車のカークーラーや冷蔵機器などに採用実績があります。

国が積極的に周知を図らないのは、環境への罪

——電力消費量の抑制で、すなわち電気料金も下がるといことですか。

もちろん。今の日本の物価高は電気料金の高騰が大きな要因となっています。かりに空調の電気料金が半分になれば、電気料金の国民負担は数兆円規模で改善されるでしょう。家計も会社経営も自治体の財政も、どれほど負担が軽くなることか。自然冷媒には大きな期待が持たれています。

——そうした利点があるにもかかわらず、普及が

進んでいないのはなぜですか。

国内での知名度の低さや、人々の地球環境問題への意識の不足はあると思います。ゼロカーボンに取り組む企業や団体に、地方自治体は増えていますが、自然冷媒の情報が浸透しているとは言えません。

加えて、この情報を広げない業界事情があります。現在使用されている代替フロンの在庫が山ほどあるからです。これを使い切るまではどんなに優れた新製品でも採用できない、という空調メーカーの利権が普及を妨げています。「自然冷媒ガスは燃えやすい」などの

デマや「このガスを入れたら保証も点検もしない」などネガティブキャンペーンを張っています。こうした事情を経済産業省や環境省は黙認しています。メーカーや業界団体に付度しているのだと私は見えています。世界で使われている有効な自然冷媒ガスの使用を積極的に周知しないのは国民に対する「罪」だと思います。電気料金の高騰と物価高にあえぎ、電気料金がもったいないばかりに熱中症になってしまう人もいます。のに、どうして広めないのか!と声を大にして言いたいですね。

▲越智文雄社長



越智社長が普及活動を始め

てから、どんな声を聞き、どんな反応がありますか。

あかりみらいは、この自然冷媒を活用して地球温暖化防止に取り組むGAI Aホールディング(本社・大阪市)の代理店として活動しています。業界団体である一般社団法人日本自然冷媒研究機構にも加盟し、まずは道内の大手スーパーやドラッグストアチェーンなど電力消費量の多い企業に情報提供を始めています。あるスーパーチェーンの創業オーナーは「どうしてそんなにすごい話がオレのところに入っていないのか」と嘆いていました。それはそうですよね。国が広めようとしていないのですから。関心を持つ人はとても多い。それほど電気料金の高騰が経営に重くのしかかっているのです。

全国のスーパーやホテル、ジム、道の駅、農業施設でも使われるようになりました。詳しくは「あかりみらい 自然冷媒」で検索してください。